



TITLE:

質疑欄

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑欄. 天界 1937, 17(196): 394-394

ISSUE DATE:

1937-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167516>

RIGHT:

質 疑 欄

(問) 太陽黒點に關して、シヴ 1 ベの唱へた黒點消長の週期は約11年とされてゐるのですが、最近其の最大の年は何年に當つてゐますか。又最少に當つてゐる年は？

我が地球から見て太陽面の向側に若し大黒點群がしたとした時に地球には變化をきたすでせうか、變化したら如何なる變化を見ることが出来るか。

(横濱・堀田泰生)

(答) 質問中のシヴ 1 ベはシュヴェ 1 ベ (Schwabe) だらうと思ひます。

最近の黒點極大期は去る1928.4年、極小期は1933.6年で、今は此の極大期の少し手前です。

大黒點群でも地球と反對側の見えない太陽面にあるときは、地球上に何等の影響をも及ぼさないものと考へられます。何故かと云へば、例へば磁氣嵐やオ 1 ロラ其他すべて太陽の中央子午線附近の大黒點や爆發的現象とは關係がありますが、中央子午線から3, 40 度以上も離れた其等との關聯はもはや殆んど見出されないからです。——Q——

編輯後記 本月號は久し振りに村上氏の玉稿を頂いて卷頭を飾る事が出来た。又荒木九皐氏の文は太陽觀測器械の基本的説明で、この種の記事を得た事は編輯子の聊さか誇りとする所である。次號からも續々と各方面の名文が豫約されてゐる。御期待を乞ふ。

毎月本誌の發送が遅れたのは、編輯係が職務の傍ら寸暇を割いて事に當つてゐるためであつて、決して怠惰の爲め許りでは無い事を辯明申し上げ度い。又高城氏が永年の編輯係を辭せられたのは、天文博物館の方に全力を注ぐためであつて、氏に代つて荒木九皐氏が直接に御協力下さる事になった。

天 界 第 1 9 6 號 昭和12年7月24日印刷 〔定價金30錢〕 送料金1錢
昭和12年7月25日發行

編輯者	京都市山科、花山天文臺内(振替大阪56765)	東亞天文協會(代表者山本一清)
發行所	京都市中京區柳馬場三條南入	株式會社似玉堂〔電本426. 427. 4501〕
印刷者	京都市中京區柳馬場三條南入	福井松之助
賣捌所	東京市芝區南佐久間町2の3	恒星社(振替東京64738)